

# 1 この科目の構成について (改行は Alt + Enter)

教科	公民	科目	倫理・政治・経済	単位	3 単
対象コース	C	コース	対象クラス	2 年	3 組
使用教科書	高等学校 現代政治・経済 新訂版 (清水書院) 高校倫理 新訂版 (実教出版)				
使用副教材	最新政治・経済資料集新版2021 (第一学習社)、ニューコンパスノート政治 経済2021 (とうほう)、高校倫理新訂版演習ノート (実教出版)				

# 2 この科目の目標・学習内容・学習方法について (改行は Alt + Enter)

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

広い視野からの観察を通して、人間社会の複雑さ・厳しさを理解して欲しい。とりわけ私たちの日常生活と関わりの深い政治経済を深く理解することによって、そこから人生を主体的に生きてゆくための判断基準を各自が構築して欲しいと思う。

学習内容：この科目で学習する大まかな内容

人間社会は、互いの理解のもとで発展してきたのと同時に、各個人は独自の希望や夢を持ち、それを実現したいと思っている。政治および経済の制度が生まれたのは、人類の歴史がこのような対立・抗争に閉幕されたのが要因であると言っても過言ではない。反面、人類の歴史は、対立・抗争を回避しつつ、個々夢や希望を実現可能にする政治・経済の制度の構築を目指してきた歴史であることを理解する。

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

テキストを使って学習する。大事な箇所を埋めてゆく形式のものだが、授業の中で取り上げられる重要箇所を自ら判断し、工夫しながら書き込みをして欲しい。

(2) 家庭

日々の社会事象 (政治・経済の動き) に関心を持って欲しい。新聞やニュースなどからの情報は、身近モノとして記憶に残りやすいものである。また、長期休業中に課される復習プリントに取り組む事で、識を確実に定着させて欲しい。

# 3 この科目の評価方法について (改行は Alt + Enter)

評価方法：何を使って評価するのか

- (1) 定期考査 年5回実施する。
- (2) 授業への取り組み 授業中の積極的な発言、テキストへの書き込みがどれだけなされているか。基本的な授業態度が守られているか。
- (3) 課題 長期休業中の復習プリント、必要に応じて課す提出物。

評価における定期考査の割合

70 %

# 4 この科目の評価の観点について (改行は Alt + Enter)

評価の観点：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか

(1) 関心・意欲・態度

授業を通じて社会を構成する基本的なきまりを理解しようとしているか。積極的に発言し、質問を出すことができるか。

(2) 思考・判断

グラフや表を授業内容と関連させて読み取ることができるか。

(3) 技能・表現

得た知識をもとに社会問題を考察し、その内容を発表できるか。また他者の発表を聞き、自らの意見を発展させることができるか。

(4) 知識・理解

定期考査の得点から、基本事項をどれだけ理解しているか。

# 5 この科目の学習計画について (改行は Alt + Enter)

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CH
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	〇/△
1	4	第6章 現代日本の政治 1. 政党の役割 2. 政党政治 3. 選挙制度 4. 現代民主政治の課題 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政党の役割と意義について理解させ、55年体制崩壊後の政党の動向を踏まえながら、政党の特色と現状における問題点を学習する。</li> <li>・選挙の意義を考え、選挙制度の問題点から改善方法を模索する。</li> <li>・世論の力が民主政治の中心的な役割を担っていることを認識させるとともに、政治的無関心の増大や世論に影響をもつマスメディアの問題点やあり方を学習する。</li> </ul>	○			○	
	5	第7章 国際政治と日本 1. 国際社会と国際法 2. 国際連合と地域統合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際社会とは何か、国際政治の目的が何かなど基礎的事項を理解する。</li> <li>・国際連合が設立された経緯やその目的を国際連盟との比較を通して理解する。</li> </ul>	○			○	
	6	3. 国際政治の動向 4. 核兵器と軍備管理・軍備縮小 5. 国際社会における日本  	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第二次世界大戦後の東西対立が国際政治の基軸となっていたことを学習するとともに、東西対立が核兵器の開発やその後の国際関係に与えている影響を学習する。また、冷戦後の世界の動きを日本との関わりにも注意して学習する。紛争やテロ行為を客観的に考察し、それらのもたらす影響を理解することで、平和な世界の尊さとその実現のための方策を思案する。</li> </ul>	○		○	○	
2	7	第2編 現代の経済 第1章 経済社会と経済体制 1. 経済活動の基本概念	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産・流通・消費のサイクルが人間社会の存立条件であることを再認識すると同時に、家計・企業・政府の三つの経済主体のそれぞれの特徴と相互関係を考察する。</li> </ul>	○	○		○	
	8	2. 経済主体と国民所得・国富 3. 経済成長と景気変動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済指標としての国民所得やGDP、および国民生活を支えるフローとストックの意味を理解する。</li> <li>・資本主義経済では景気の変動が避けられないこと、またそれに伴う問題について理解する。</li> </ul>	○	○		○	
	9	4. 市場経済にいたる経済体制の変容 5. 市場経済の機能と限界 6. 企業の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資本主義の仕組みとその特徴を理解する。その発展と変容を、矛盾を克服する試みとして登場した社会主義と比較しながら理解する。</li> <li>・市場機構の限界の内容と、政府の果たす役割の重要性を理解させる。</li> <li>・資本主義経済における会社企業の役割と、特に株式会社の仕組みについて理解する。</li> </ul>	○	○		○	
	10	7. 物価の動き  	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時代によって生活が変化するのに伴い、物価も変化してきたことを理解し、経済の動きを知るきっかけを掴む。実際の物価動向とその原因を考察し、まとめて発表する。</li> </ul>	○		○	○	

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHE
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	〇/△
	11	第2章 金融と財政のしくみ 1. 金融のしくみとはたらき  	・金融に関する基礎知識を理解させると同時に、マネーストックと金融政策の意義を把握させる。	○			○	○
	12	2. 財政のしくみとはたらき    	・財政規模の拡大に伴う、国民経済に果たす財政活動の意義と、財政政策の重要性、今日の財政改革の課題を理解する。社会における租税の役割と社会の一員として納税の義務を果たすことの重要性を理解させる。	○	○	○	○	○
3	1	第1編 青年期の課題と人間の自覚 第1章 青年期の課題と自己形成 第1節 青年期の意義 	・「第2の誕生」「マージナルマン」等を学習し、青年期特有の不安を、客観的に理解する。	○	○	○	○	○
		第2節 青年期の課題 	・青年期の課題を、アイデンティティの確立として捉え、生涯にわたる自己確立の視点を持つ。〈道徳教育を実施〉	○	○	○	○	○
		第2章 凶問としての自覚 第1節 田リシア思想 1 自然哲学とソフィスト 	・古代ギリシアの自然哲学の誕生を通じて、理性的人間観と合理的世界観の成立を理解する。	○	○	○	○	○
	2	2 ソクラテス	・知的探求が善く生きることと一体であるという、ソクラテスの哲学的精神の意義を理解する。	○	○	○	○	○
		3 プラトン	・理想主義であるイデア論の特徴を理解し、理性の役割や「哲人政治」の意義について考える。	○	○	○	○	○
		4 アリストテレス	・アリストテレスの自然観、および道徳論、国家論の、現実主義的な特徴を理解する。	○	○	○	○	○
	2	5 ヘレニズム時代の思想	・自然との一致を願う個人主義が、世界市民の自覚や自然法の観念を生んだことを理解する。	○	○	○	○	○
		第2節 田リスト教 1 旧約聖書	・キリスト教の形成を学習し、厳格な道徳意識に立つ一神教の特徴を理解する。	○	○	○	○	○
		2 イエス 	・神の愛アガペーと隣人愛の意義を考える。	○	○	○	○	○
		3 キリスト教の誕生と展開	・イエス＝キリストの信仰の成立を学習し、パウロやアウグスティヌスの人間観を理解する。	○	○	○	○	○
	3	第3節 イスラーム	・キリスト教とイスラームの思想的な関係を理解し、イスラーム共同体の意義を考える。	○	○	○	○	○

立

活  
基

現  
掛  
の

な

な  
知

]

]



ECK  
Δ ×

—